

小学校入学児を持つ保護者の意識調査 (1)

- 小学校入学児を持つ保護者の意識の実態 -

○細川かおり 伊藤輝子 岩崎洋子

(鶴見大学)

1. 問題と目的

本報告は、横浜市教育委員会の委託を受けた幼保小教育交流研究会が実施した調査の一部である。この調査は横浜市内の幼稚園、保育園、小学校の教育連携についての実態を把握し、今後の幼・保・小の教育連携のあり方を考える基礎資料とすることを目的として行われた。市内の幼稚園、保育園、小学校（主に1年生）の教師およびその保護者を対象に実施した。本報告では主に保護者に対して実施した調査結果を分析することにより、小学校入学児を持つ保護者が何を心配し、何を身につけさせたいと考えているか、小学校についての情報をどこから得ているのかなど保護者の意識の実態を分析することを目的とした。

2. 方法

1) 対象：横浜市在住の次年度就学予定の子どもを持つ保護者を対象とした。アンケート用紙は市内の幼稚園54園、保育園54園（公立、私立を含めて）を通じて保護者に配布し、回収した。アンケート用紙は各園に50部づつ送付した。なお、幼稚園、保育園は各区6園づつ無作為に抽出した。

回収は幼稚園39園（72.2%）、保育園42園（77.8%）で、幼稚園児の保護者1289名、保育園児の保護者562名の回答を得た。

調査の記入者は幼稚園児の保護者の93.1%、保育園児の保護者の89.7%が母親であった。また、男児は49.5%、女児は47.4%、不明3.1%であり、第1子は幼稚園児の54.6%、保育園児の53.4%であった。

2) 期日：1995年12月14日から12月19日の間に実施した。

3) アンケート調査の内容：小学校入学への保護者の不安や期待の内容を把握する目的で、次の7つの質問から成る。問1小学校入学前に子どもに身につけてほしいこと、問2小学校入学にあたって心配なこと、問3小学校についての情報をどこから得たか、問4小学校を理解するためにどのようなことがあったらよいか、問5小学校入学前に知りたいこと、問6文字や数の指導、問7幼稚園・保育園の教育について。なお、本報告では問1から問4を中心に報告する。なお、問1については小学校保護者と小学校教師に同じ質問をしている。

3. 結果

1) 小学校入学前に子どもに身につけてほしいこと

①全体の結果

小学校入学前に在園児保護者が自分の子どもに身につけてほしいことで最も多い項目は、「話を聞き、自分の考えをいう」（54.9%）であり、次いで「挨拶や返事ができる」（49.8%）「早寝早起きの習慣」（45.9%）となっている。大分県教育センター研究部（1991）の調査でも「思いをいう」ことが最も多く、本研究の結果とも一致する。一方「数字を読む」（8.6%）「好き嫌いをなくす」（12.5%）「名前を書く」（15.6%）はあまり身につけさせたいと考えていなかった。

②在園児保護者と1年背保護者との比較

在園児保護者の結果と1年生の保護者の結果を図1に示した。1年生保護者に対しては「小学校入学までに身につけておけば良かったと思うことは」と質問した。1年生保護者の上位3項目は「話を聞き、自分の考えをいう」（61%）、「挨拶や返事」（37.2%）「早寝早起きの習慣」（35.5%）で、在園児保護者と全く同じであった。また、「数字を読む」（7.8%）「名前を書く」（3.8%）といった項目も在園児保護者と同様に低かった。また、両者を比較したところ、「食物の好き嫌いをなくす」（ $\chi^2(1)=30.74, p<.01$ ）では有意に小学校保護者が多かった。一方「早寝早起きの習慣」（ $\chi^2(1)=20.83, p<.01$ ）「登校の支度」（ $\chi^2(1)=16.45, p<.01$ ）「安全に通学」（ $\chi^2(1)=211.21, p<.01$ ）「ひらがなを読める」（ $\chi^2(1)=69.29, p<.01$ ）「名前をかく」（ $\chi^2(1)=121.43, p<.01$ ）「身辺自立」（ $\chi^2(1)=113.82, p<.01$ ）「挨拶や返事」（ $\chi^2(1)=53.60, p<.01$ ）は有意に在園児保護者が多く、在園児保護者の方が多くのことを身につけさせたいと考えていると推察される。

③在園児保護者と小学校教師との比較

「入学までに児童に身につけておいてほしいことは」との問いで、同様の質問を小学校教師に実施した。その結果小学校教師の上位3項目は「身辺自立」（87.5%）、「挨拶」（43.9%）、「安全に通学」（43.0%）であった。在園児保護者では「挨拶や返事」は2番目に高い項目であり、教師の結果とほぼ一致していた。「安全に通学」は在園児保護者では小学校教師よりやや低い全体で4番目にあげている。小学校教師で最

も多かった「身辺自立」は在園児保護者では非常に低い割合となっていた。一方、「数字を読む」「ひらがなを読む」は小学校教師もあまり身につけさせたいと考えておらず、在園児保護者と同じであった。

両者を比較した結果、「安全に通学」($\chi^2(1)=9.70$)「名前をかける」($\chi^2(1)=13.17, p<.01$)「身辺自立」($\chi^2(1)=751.26, p<.01$)は有意に小学校教師が多く、「早寝早起き」($\chi^2(1)=24.08, p<.01$)「登校の支度」($\chi^2(1)=17.56, p<.01$)「ひらがなを読める」($\chi^2(1)=17.90, p<.01$)「数字が読める」($\chi^2(1)=17.90, p<.01$)「話を聞き、自分の考えをいう」($\chi^2(1)=92.19, p<.01$)は有意に在園児保護者が多かった。

2) 小学校入学にあたって心配なこと

小学校入学にあたって心配なことはで最も多い項目は「友だち」(57.7%)であり、次いで「先生」(37.4%)、「勉強」(30.1%)、「通学」(29.4%)となっている。先の先行研究では「勉強」が最も多かったが、本研究では「友だち」が最も多かった。「健康」(12.3%)、「生活習慣」(22%)は少なかった。

3) 小学校についての情報取得

小学校についての情報(表1)は主に「近隣の保護者」(36.9%)、「子どもの兄姉」(32.9%)、「同じ園の保護者」(20.1%)から得ていた。また、「幼稚園・保育園の先生」(1.1%)、「小学校の先生」

(2.2%)からはほとんど得ていなかった。また、1年生の保護者に対して同様の質問をした結果、「近隣の保護者」(45.3%)、「子どもの兄姉」(28.8%)、「同じ園の保護者」(17.3%)となっており、在園児保護者と同じ結果であった。

小学校を理解するためにあったらよいこと(表2)として保護者が望んだものは「保護者の小学校の見学」(61.7%)「小学校の先生の話」(48.5%)、「小学校からの印刷物」(41.9%)の順であった。これらの結果から保護者は行事ではなく施設や授業を直接見学することを望んでいると考えられる。これらが実際にあったかどうかを1年生保護者に尋ねた結果と併せてみると、「保護者の小学校の見学」は12%、「小学校の先生の話」は8.9%、「小学校からの印刷物」は25.7%しか実施されていなかった。

4. まとめ

以上の結果から、在園児保護者は1年生保護者と比較して有意に高い項目が多かったことから、より多くのことを身につけさせたいと考えていること推察され、その背景には在園児保護者の不安が伺えた。しかし保護者が身につけさせたいことは小学校教師とずれていた。また、保護者は小学校についての情報を直接的な方法で得ていなかった。小学校についての正確な情報を提供することが、小学校教師と保護者の意識のずれを埋めたり、保護者の不安解消のために必要と考えられる。

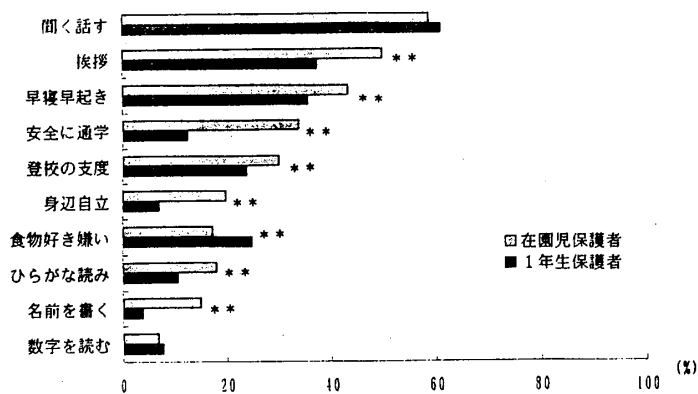


図1 在園児保護者と1年生保護者の入学前にできるようにしておきたいこと
在園児保護者N=1851 1年生保護者N=1571 * p<.05 ** p<.01

表1 小学校についての情報をどこから得たか

	在園児保護者	小学校保護者
近隣の保護者	36.9	45.3
子どもの兄姉	32.6	28.8
同園の保護者	20.1	17.3
小学校の先生	2.2	2.1
園の先生	1.1	1.0
	5.2	4.4

単位%

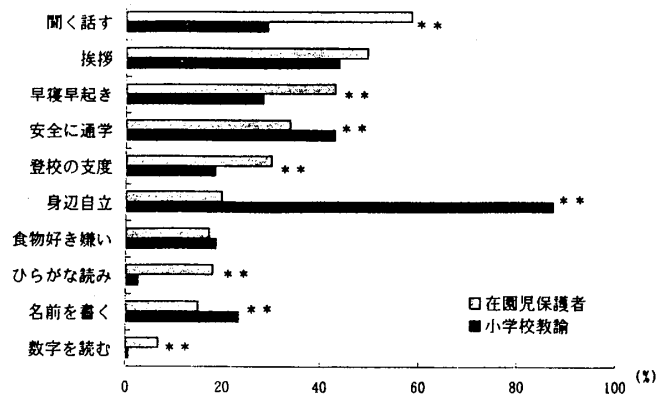


図2 在園児保護者と小学校教師の入学前にできるようにしておきたいこと
在園児保護者N=1851 小学校教師N=305 * p<.05 ** p<.01

表2 小学校を理解するためにあったらよいこと・あったこと

	在園児保護者	1年生保護者
施設の見学や授業参観	61.7	12.0
園の保護者会で小学校の先生からの話	48.5	8.9
小学校からの印刷	41.9	25.7
小学校行事への招待	26.2	18.9
その他	5.2	7.0

単位%